

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2026年3月27日
作成 高齢者支援センター	忠生第1
作成者	宍戸 文晴

1.開催日時	2026年3月23日	(月)	14:00	～	16:00
2.会場	忠生市民センター				
3.主催センター	忠生1				
4.参加人数	42				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター	7人	<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター	2人	
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者	1人	(うち、医師 1人)	<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者	6人
	<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	2人	<input checked="" type="checkbox"/> 老人会	1人	<input checked="" type="checkbox"/> 住民 15人
	<input checked="" type="checkbox"/> 町内会自治会	3人	<input checked="" type="checkbox"/> 警察	2人	<input type="checkbox"/> 行政 人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	(障害施設 2名 消防署 1名)			
6.開催テーマ	「救急時の備えについて考える」				
7.地域課題	(1)課題設定の背景				
	<p>身寄りのない高齢者は救急要請時に救急隊の必要とする情報が得られないことが多く、支援センターやケアマネージャーへの問い合わせや、救急車への同乗を求められることが散見される。搬送時に必要な情報を備えていない住民が多い。</p> <p>(2)検討した地域課題</p> <p>支援センターでは「救急医療情報キット」の周知活動を行っているが、存在を知らない地域住民が多く、準備をしている人が少ない。</p>				
8.医療と介護の連携に関する課題	支援センターでは「救急医療情報キット」の周知活動を行っているが、存在を知らない地域住民が多く、準備をしている人が少ない。				
9.会議の内容	<p>①趣旨説明②「救急医療情報キット」について説明③西村内科 西村院長より挨拶④講話 町田消防署 忠生出張所 木村氏より「救急時の備えについて」⑤グループワーク:テーマ:「自分自身で備えていること」「講話を聞いて必要と思うこと」⑥各グループから発表:あんしんキーホルダーと救急医療情報キットの両方を備える・グループ活動を通して顔の見える関係性を作る・救急隊に住所を伝えることができるよう電話にメモを貼る・グループラインによる安否確認・救急医療情報キットの情報更新をする・救急医療情報キットをすぐ備える・#7119の活用・自身の病気のことを家族に話しておく・ACPが必要だが話のきっかけが難しい・延命処置をしないと決めても、子供は何とかしたいと思うのではないか・災害時本当に必要な薬の備え。⑦質疑応答⑧ 町田警察署 生活安全課防犯係 帖地氏より会議の感想⑨町田消防署 木村氏より総評。</p>				
10.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<p>対応策:「救急医療情報キット」の存在を知っている方は多かったが作成に至っていない住民が多い。引き続き支援センターから救急医療情報キットの必要性について周知活動を行う。作成している住民からロコミで普及してもらおう。町内会・自治会などに向けて作成会及び普及啓発活動を行う。</p> <p>今後の展開:医療機関と救急搬送時の話し合いの機会を持ち、医療機関側の必要とする情報や役割を知る。救急医療情報キットの話し合いの中でACPの必要性の話が住民から上がったので今後の会議に発展していく。</p>				
11.その他					

医療と介護の連携支援センター 確認日	3月27日
--------------------	-------